

新潟放送

事業の名称

「その時どうする！」防災・メディアリテラシー啓発イベント

共同で事業を実施した団体

新潟市西蒲区自治協議会（新潟市西蒲区の地域課題解決やまちづくりを推進する、住民と市をつなぐ市長の附属機関。防災に力を入れている）

事業概要

本事業は、当社アナウンサーの「声の力」と「物語」を掛け合わせることで、従来のニュースやデータだけでは伝わりにくい防災・減災のメッセージを、幅広い世代に共感とともに届け、災害時、あふれる情報の中からいかに「正しく読み解く力」が必要であるかを、多角的なアプローチで発信しました。

1. 防災朗読劇「職員室！」の制作と上演

豪雨・停電・地震が連鎖的に発生する「放課後の小学校職員室」を舞台としたオリジナル朗読劇を制作・上演しました。

作品内では、SNS上で拡散される「堤防決壊」「動物園からのトラの脱走」といった実例に近いフェイクニュースに翻弄される大人たちの姿をコミカル、かつリアルに描写。観客が物語に没入することで、災害時の混乱を疑似体験し、「情報の見極め」を自分ごととして捉えられる構成としました。



2. 防災士アナウンサーによる専門的解説とメディアリテラシー教育

上演後には、防災士資格を持つアナウンサーが物語の内容を補足して解説しました。朗読劇を元に、東日本大震災における風評被害や熊本地震での「ライオン逃走デマ」など、過去の災害で実際に起きた事例を引用。混乱の中で情報の真偽を判断するための具体的指針として、日本防災士機構が推奨する情報確認の合言葉「だいふく」を提示しその重要性を深く浸透させるとともに、確かな情報ソースとして、複数の防災アプリ（「新潟県防災ナビ」「BSNアプリ」など）を紹介しました。



●情報確認の合言葉「だいふく」

- だ：だれが言っているのか（発信元の信頼性確認）
- い：いつ言ったのか（情報の鮮度と時間の確認）
- ふく：複数の情報ソースを確かめたか（多角的な裏付けの確保）

事業の成果

2025年度は3回の上演を通じ、地域住民から高い評価を得るとともに、メディアリテラシーの重要性を広く周知しました。

●実施日・イベント名（会場）と内容について

① 9月6日（土）「ぼうさいこくたい2025」（新潟市・万代島多目的広場 大かま）

たくさんのトークイベントの中の一演目として上演しました。動きのある演出を用いたことで多くの人が立ち止まって聞いてくれました。

② 11月2日（日）公開収録「BSNアナウンサー防災朗読劇」

（新潟放送ラジオ第1スタジオ）

抽選で80名を招待。「羽越水害」をテーマにした作品との2本立てに、メディアリテラシー講座も加えて実施しました。また、ラジオ番組でも放送し、たくさんの反響を得ました。

③ 3月1日（日）「西蒲区自治協議会提案事業」（新潟市西蒲区西川多目的ホール）

200名の観客を前に上演。フォーラムを通じ、地域コミュニティにおける情報伝達の重要性を伝えました。

●参加者の反響（アンケートより抜粋）

・気づきと意識の変化

「SNSでフェイクニュースが身近にあることに初めて気づいた」「防災アプリをインストールして、まずは正しい情報を確認する習慣をつけたい」といった前向きな意見が多数寄せられました。

・幅広い世代への啓発

「自分だけでなく、子どもや家族を守るために冷静な判断が必要だと感じた」「子どもにこの内容を伝えたい」「ラジオ放送を家族で聞こうと思う」など、家庭内でも話題にしたいと考えてもらえました。

・手法の有効性

「真面目な内容かと思ったが、笑いもあり楽しく学べた」「『だいふく』という言葉が非常に覚えやすく、勉強になった」と面白く学ぶスタイルに評価を頂きました。

●総括と今後の展望

本事業を通じ、放送局として「情報を伝える」だけでなく、「情報の受け取り方を育む（メディアリテラシー）」活動が、災害時の人命を守るための不可欠なピースであることを再確認しました。ラジオ放送や地域イベントと連動させることで、一過性ではない継続的な意識改革を今後も目指してまいります。

以 上